

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

No.34 (通巻38号)

平成21年2月20日発行

【目次】

- こんなのあります -いちおしレファレンス・ブッカー 【24】 1
『レファレンスブック アラカルト 2008』
- 市町村のみなさんから発信【23】 3
「地域資料に関するレファレンスサービスについて」 厚岸情報館 川原田 恵 さん
- Librarian's Box (ししょばこ) 【20】 6
レフェラルサービス ~道立の機関の紹介~
- 課員のつぶやき -日々の業務からの短信- 【21】 7
レファレンス協同データベース
- レファレンスサービスに関する雑誌記事紹介 (2008年11月~2009年1月分) 8
- News 10
 - 1 道民ホール展開催(10/23-24)
 - 2 書庫ツアー第3回開催(11/3)
 - 3 市町村図書館職員レファレンス研修を実施(11月~2月)
 - 4 道民カレッジ連携講座「暮らしに役立つ図書館活用術②」開催(11/20)
 - 5 日外アソシエーツ特別企画 図書館司書アンケート結果発表(11/26)
 - 6 道医療大連携講座「わかりやすい健康に関する情報講座」開催(12/2)
 - 7 図書館地区別(北日本地区)研修開催(12/9-12)
 - 8 道民カレッジ連携講座「インターネット資料検索講座②」開催(1/29)
 - 9 『建設業新分野進出事例発表会』開催協力(2/6)
 - 10 書庫ツアー第4回開催(2/19)
- 編集後記 12



北海道立図書館

HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

こんなのあります —いちおしレファレンス・ブッカー 【24】

レファレンスブック アラカルト 2008

今回の特別編では、北海道立図書館で昨年受け入れた参考図書の中から 10 冊の“いちおし”を紹介します。

① 懐疑論者の事典 上, 下 ロバート・T. キャロル著

“物事を探求する”レファレンスにおいてふと「コレ、ホントに信じていいの？」との思いが頭をよぎることはよくありますね。危うい情報が氾濫する現代において疑惑の目を向ける懐疑論者の有名な米国のサイトから 375 の項目を収めたのが『懐疑論者の事典』。超自然、オカルト、疑似科学などをごく冷静に分析解説する「信じる前に読む」ための事典です。巻末の人名索引から複数の項目にアプローチできるので、シュタイナーの意外な足跡?も調べられます。巻末参考文献もあり。

(楽工社刊 2008.1 433p 21cm 道立図書館請求記号 R147.03-KA)

② 戦争の世界史 R. G. グラント編著

続いて、取り上げるのが『戦争の世界史大図鑑』。図版やデータが満載なので調べ学習用に購入された図書館も多いかと思います。5000 年にも及び歴史上の戦争や紛争について写真や地図、絵画を多用してビジュアルに紹介しています。兵力、死傷者数などが事細かに掲載されているので、シミュレーションゲームの愛好者にも読まれそうな内容になっています。(河出書房新社刊 2008.7 360p 31cm R203.2-SE)

③ 367 日命日大事典 データブック忌日暦 [日外アソシエーツ編]

図書館における調べ者?の“ツボ”を心得た日外アソシエーツ社からは『367 日命日大事典』と『教科書掲載作品』を紹介します。

『367 日命日大事典』前者はカエサルから坂井泉水まで 27,658 名を網羅して暦日順に紹介してあります。歴史上の主な出来事も合わせて掲載しているので、展示のテーマ探しにも有効に使いそう。人名索引もあり。

(日外アソシエーツ刊 2008.9 1007p 21cm R280.3-SA)

④ 教科書掲載作品 読んでおきたい名著案内 小中学校編 日外アソシエーツ編

⑤ 教科書掲載作品 13000 読んでおきたい名著案内 阿武泉監修

次にレファレンスの定番ともいふべき“教科書の掲載作品”が調べられる『教科書掲載作品』シリーズの 2 冊。収録範囲は 1949 年から 2006 年に掲載された国語の教科書の作品名を収めています。「小中学校編」には約 8,000 作品。「13000」には高校の教科書からの作品約 13,000 を紹介しています。元データは昭和 24 年から 61 年を収録範囲とする『中学校国語教科書内容索引』(国立教育研究所附属教育図書館編 教科書研究センター編・発行)。これに同社独自の情報を加えた資料です。軽装版なのでより親しみやすく使いそうですが、一部を除いて掲載データの列記で作品紹介はありません。副書名の“名著案内”を期待する内容ではありません。戦後の教科書であればインターネットの「東書文庫 <http://www.tosho-bunko.jp/>」や「神奈川県立総合教育センター <http://kjdedu-ctr.pref.kanagawa.jp/daizai/>」でも調べられるので、こちらもおさえておきましょう。(〔小中学校編〕日外アソシエーツ刊 2008.12 690p 21cm 903.1-KY) (〔13000〕日外アソシエーツ刊 2008.4 905p 21cm R903.1-KY)

⑥ 日本人名関連用語大辞典 荻生待也編著

初の試みに期待が膨らんだのが『日本人名関連用語大辞典』。「日本の酒文化総合事典」や「図説ことばあそび遊辞苑」などユニークな事典を生み出してきた荻生待也氏の編集による、人を指し示す用語を集めた総合用語集。四部構成で、「人名関連用語編」は、古代から現代の人名に関する用語 1,590 について解説し関連文献から例文を掲載するなど力の入った内容。ただし「ニックネーミング編」は一人につき一つの例がほとんどなので、約 1,500 名の人選と紹介されている渾名・異名については異論もありそう。芸名、筆名、号、戒名ではなく、あくまでニックネームという不定形なものに焦点を当てた部分は意欲的。でも、照会に対してコレですと回答するのは無理があるかも。

(遊子館刊 2008.6 393, 29p 27cm R288.1-Ni)

⑦ 物価の文化史事典 明治大正昭和平成 森永卓郎監修

次に取り上げるのが『物価の文化史事典』。“物価”といっても公的機関による「物価」だけには留まりません。本資料では「木村屋総本店あんぱん値段史」や「代表的な実用車、ラビットとスーパーカブの価格変遷」といった業界資料の統計もふんだんに登場し、値段を通して見た文化史の面を重視しています。そもそも「事典」とありますが、経済アナリストというよりタレントの森本卓郎氏の名前を冠した“気になるモノの気になる価格”のおもしろ“読み物”といえる内容で、これで索引でもあれば少しは事典らしく使えるのに、という少々残念な「イチオシ」の一冊。

(展望社刊 2008.7 477p 22cm R337.821-B)

⑧ 絵引民具の事典 岩井宏実監修

年とともに困るのが物の名前が出てこないこと、という年でもありませんが、普段見たこともない民具を名前もわからずに探すのは至難の業、と置いていたところに目を引いたのが『絵引民具の事典』。本文は「たべる」「たがやす」「はこぶ」「いのる」といったシチュエーション別に民具がイラストとともに紹介されています。では“絵引”の部分は？というところ、巻頭に項目名と本文イラストの縮小したものが 27 ページにわたって一覧掲載されていて納得！巻末には通常の五十音順索引もあり。

(河出書房新社刊 2008.9 487, 36p 22cm R383.9-E)

⑨ 図説絵本・挿絵大事典 全 3 巻 川戸道昭, 榊原貴教編著

第 1 巻のキリシタン版天草本から戦後昭和 20 年代までの児童文学をオールカラーで紹介した「図説 日本の児童書 400 年」(川戸道昭著)も見ごたえがありますが、第 2 巻・第 3 巻の明治以降の絵本・挿絵画家の事典「絵本・挿絵画家事典 榊原貴教編著」がオススメ。挿絵画家の探索では文学系の事典や一般の研究書を引いたりしますが、本事典には約 1,500 名の画家の収録に加え、名前の読み方、略歴、それから代表的な挿絵の掲載書誌が列記されています。画家名の五十音順。

(大空社, ナダ出版センター刊 2008.11 3冊 27cm R726.5-Z)

⑩ 図説日本の辞書 沖森卓也編

“ことば”の辞典である辞書の定義や分類・歴史を楽しみながら学べるオススメ資料。「和名類聚抄」や「日葡辞書」といった一度は耳にしたことのある古典から、「大漢和辞典」「日本語大事典」といった常用辞書まで、50 種類の辞書の概観、成立、諸本、図版解説、レイアウトをコンパクトにまとめ、特徴や使い方も紹介してあります。必読の書。

(おうふう刊 2008.1 140p 21cm R813.02-Z)

市町村のみなさんからの発信 【23】

「地域資料に関するレファレンスサービスについて」

厚岸町 本の森 厚岸情報館 川原田 恵さん

私は厚岸情報館が平成8年7月に開館する前の年、平成7年4月に厚岸に赴任しました。当時の厚岸町には単独館ではありませんでしたが社会福祉センター内の一室に公民館図書室があり、2万4千冊ほどの蔵書がありました。そのうち地域資料（当時は郷土資料）については約400冊。

情報館開館 資料を集めよう

厚岸は“花と味覚と歴史のまち”というキャッチフレーズがあるように、古くはアイヌ首都とも呼ばれ、寛永年間に松前藩がアッケシ場所を開設し運上屋を設けた古い歴史があり、道東文化の発祥の地とも呼ばれています。（『厚岸町史』上巻 昭50 参照）・・・のはずなのですが、当時私は図書室の地域資料の少なさ、蔵書の少なさにまず驚きました。

また、レファレンスサービスも行われていたとは思われますが、それについての統計や記録がなかったので、隣の市から来た私にとっては、もしもこの手のレファレンスが来た時にはどのように対応してよいのか、といった戸惑いがあったものでした。

当時の郷土資料は“北海道”に関すること、“アイヌ”に関すること、“厚岸”に関することもすべて“郷土資料”として分類されていました。

そこで、まず情報館を開館するにあたっては、郷土資料を“北海道関係”“厚岸町関係（行政資料も含まれる）”と分類することにしました。また、開館した年には、設置条例等と並んで“厚岸情報館行政資料収集管理規程”も定めて、郷土資料だけではなく行政資料の収集にも努めることにしました。

もっとも、規程を定めただけで収集がうまくいくわけではなく、役場の担当者の考え方によって、熱心に提供してくれる所とそうでない所があり、それぞれで大きな差があったという現実もありました。

町の情報公開条例と行政資料の収集

平成12年度には厚岸町でも情報公開条例が制定され、館内閲覧用の行政資料が郷土資料と並んで書架に並ぶことになりました。

情報館では、行政資料については館内閲覧用に加えて、可能なものについては館外貸出用も受け入れるようにしています。また、郷土資料についても、インターネットで古書店を検索したり、定期的に送付されてくる目録をたよりに、少しずつですが購入して揃えていくことを心がけています。

現在、情報館には、北海道関係を含めて地域資料（児童書も含む）が約5千冊揃えられています。開館当時と比べると10倍以上にも蔵書が増えたこととなります。

しかし、地域資料のレファレンスサービスはどのようなかということ、当然のことながら資料を活かすのは職員の腕次第。言い換えれば、職員が熟知していなければ地域資料もただの紙だと思ってしまうのです。

町を知ることとレファレンスサービス

実は情報館の職員のほとんどが町外出身者で占められています。“生まれながら”といった厚岸町の歴史を一部分でも肌身に感じていることができれば良いのには思いますが、なかなかそうはいかないのが現実です。そのため、地域資料のレファレンスが寄せられると、内容によっては数人がかりで取り掛かって解決しなければならないことも珍しくありません。

また、情報館になってからはレファレンスの内容は記録することにしていて、記録票の様式もあるにはあるのですが、カウンター業務が忙しくなってくると記入する時間もままならないというのが現状、結局、後で同じレファレンスを受けてしまうなど二度手間になってしまうこともあります。

人とのつながりとレファレンスサービス

過去の記録票を見ていくと、地域資料に関するレファレンスの調査過程に学芸員さんの名前が出てくることがあります。厚岸町には博物館施設である海事記念館があり、記念館の学芸員さんに直接話を聞く機会があるためです。現在の学芸員も実は町外出身者なのですが、そこは専門家、色々なことを本当によく勉強しています。（見習わなければならないとは思いますが・・・。）

では、そういった“ツテ”をたどっても結果が出ないとどうなるのか、というと、「その話なら、どこそこの誰さんが知っている」ということになる場合もあります。実際にあった質問には、「昭和 10 年頃にあったエンピツ工場の場所は？」とか「塩田があった時代について」、「明治 23 年に太田屯田兵村に入植した人がすべて士族だったのか？」などなど。それこそ、顔を見知っている人を紹介してもらったり、逆に学芸員さんを通して話を聞いてもらったりします。

現在、新しい町史（『新厚岸町史』日鑑記・上 自然・統計編 以後全 6 巻予定）を刊行するための準備を進めています。その編集作業を行っているのが、情報館の 2 階の一室にある町史編纂室ですが、平日には担当者が 1 人いるので、その方に聞くこともあります。また直接、該当と思われる役場の担当者に聞いたりもします。

小さい町ならではの話だとは思いますが、地域を調べるレファレンスサービスにはこうした人のつながりが欠かせないように思います。

レファレンスと関わっていくということ

もちろん、いつもこうした助けを借りているばかりではありません。通常は所蔵している文献で答えられるものも多いのですが、そうではない場合に、目的や回答に辿りつくための道筋がぱっと頭に浮かぶ司書でありたいと考えています。

また、その内容についても忙しさを言い訳にしないで、また、きちんと記録することによって、担当する人が交代しても受け継がれ、さらに年月を経て、所蔵する資料も更に充実していくことが大切だと思います。

情報館は人間でいうと今年で中学 2 年生。まだまだ若い。レファレンスサービスの充実にこれからもますます努めたいと考えています。

ブログ「レファレンスの森本さん」も楽しめる「本の森 厚岸情報館」の情報は
こちらをご覧ください。 <https://lib.town.akkeshi.hokkaido.jp/jouhoukan/>

ブログ「レファレンスの森本さん」

http://www.town.akkeshi.hokkaido.jp/morimotosan/diary.cgi

レファレンスの森本さん - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

戻る 進む 中止 更新 ホーム 検索 お気に入り 履歴 メール 印刷

アドレス(D) http://www.town.akkeshi.hokkaido.jp/morimotosan/diary.cgi

移動 リンク NACISIS Webcat

レファレンスの森本さん

厚岸情報館森本さんがレファレンスに答えるコメントを紹介するページです。

URL QRコード

文字拡大 文字縮小 戻る RSS 管理者用 カウンター:累計001625 当日003 昨日006

プロフィール

[レファレンスの森本さんについて](#)

カレンダー

2009年2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-

[前の月](#) [次の月](#)

紹介したリンク集

- [本の森キャラクターくらぐんについて](#)
- [高校生と文系のための相対性理論](#)
- [学校サイエンスキッズ](#)
- [本の森厚岸情報館ハロウィン展示](#)
- [大阪板硝子販売株式会社](#)
- [日本回文協会](#)
- [JR北海道釧路支社](#)
- [図書館の自由に関する宣言](#)
- [行事:にんじゃっこ情報館のヒミツをさぐれ!](#)

ログ検索

検索する

前のページ

[前のページ](#) [次のページ](#)

ミッキー & ミニ 16歳

2008年07月05日(土)10時18分

質問: どうやって、人を好きになれるのぉー? 返事おねがいします

森本: ミッキー&ミニーさん、こんにちは! 森本です。異性に限らず、人を好きになることって、大変不思議ですよ。実際にあったことのない芸能人を好きになったり、友達が無二の親友になったり、家族が大好きだったり、心は人それぞれちがう不思議なもの。森本もどうやって人を好きになれるかは不思議です。不思議なのですが、本を読んでいると、これかな?と思う言葉のカケラにぶつかることがあります。本の中に、ミッキー&ミニーさんの心にぴったりとはまるカケラがうもれているかもしれません♪

この記事のURL [1:生き方・悩み・宗教・占いのこと](#)

てるみ 8歳

2008年07月05日(土)10時16分

質問: 1.じょうほうかんの本はかったんですか?
2.DVDはなぜみれるんですか?

森本: てるみさん、こんにちは。じょうほうかんの本はかった本と“きぞう”といってもらった本があります。本の森には、本のほか、たのしんだり、べんきょうできたりするものがあります。CDとか、びでおとかネ。それで、DVDをみるきかい(機械)もあって、DVDをみることができます。

この記事のURL [本の森厚岸情報館のこと](#)

はじめに...

実際の掲示板での約束事
[レファレンスの森本さんの返答内容について](#)
[図書館関係者・大人のみなさんへ](#)
[分類について](#)
[参考図書について](#)
[レファレンス森本さんファイルアップ時期について](#)
[投稿者の名前・年齢について](#)

分類(NDC)一覧

- 0: 図書館や調べものに使う本のこと (15件)
- 1: 生き方・悩み・宗教・占いのこと (42件)
- 2: 歴史・地理・伝記のこと (3件)
- 3: 自由研究・社会・福祉・道徳・文化のこと (62件)
- 4: 植物・動物・理科の実験・宇宙・星・算数・からだのこと (53件)
- 5: 工作・工業・料理・手芸のこと (8件)
- 6: 農林水産業・のりもの・建物・動物の飼いや方・植物・野菜の育て方 (26件)
- 7: 折り紙・工芸・なぞなぞ・文字・歌・手品・劇のこと (15件)
- 8: 文章・言葉・ことわざ (8件)
- 9: 絵本・紙芝居・物語のこと (3件)
- 視聴覚資料(CDやDVDなど)のこと (6件)
- 本の森厚岸情報館のこと (39件)
- 厚岸のこと (3件)
- 森本さんのこと (68件)
- どうしても分類できないもの (12件)

ページ移動 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 ...

Scripted by Web Liberty / Designed by uz

インターネット

Librarian's Box (ししょぼこ) 【20】

レフェラルサービス～道立の機関の紹介～

「学校の授業でビデオを使いたいんだけど…。」、「機械を製作したい。」。日々利用者から寄せられる質問の中には、高度な情報を必要とする場合や、所蔵を確認しても貸出(借受)ができず、利用者の求める情報が提供できない場合も多いかと思えます。

今回は、レフェラルサービス(専門機関等の紹介)として、おさえておきたい道立の機関のいくつかを紹介します。

◆**北海道立生涯学習推進センター附属視聴覚センター**<http://manabi.pref.hokkaido.jp/avc/>
教育・福祉、教養、産業・技術、芸術・芸能、体育・スポーツ、家庭生活・趣味、市民生活・国際理解、学校教育にわたる幅広い分野の教材(DVD、16mmフィルム、VHSビデオテープ)を約5000タイトル所蔵、貸出しています。貸出しには団体登録が必要で、図書館を通じなくても学校や読書グループのような少人数単位での登録もできます。エル・ネット「オープンカレッジ」録画教材は、個人でも利用できます。送付も可能ですが送料は利用者負担です。視聴覚教材「キーワード検索」・「50音順索引」があります。その他、効果音・BGM用コンパクトディスクコレクション(著作権フリー)リストも掲載されています。

◇ 札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7ビル9階 TEL 011-231-4111 内線 36-345
教材貸出カウンター

また、各地域の保健所でも健康・福祉関連のビデオについて個人貸出をおこなっているところがあります。例：**北海道江別保健所「健康情報ライブラリー」** 郵送貸出も可能です(送料は利用者負担)。<http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/hf/hfc/>

◆**北海道立工業試験場(技術支援係)** <http://www.hokkaido-iri.go.jp/>
中小企業等の新製品・新技術の開発や、技術的な問題について、指導・助言を行っています。中小企業が主ですが個人での研究・開発など専門的な技術についての相談も電話やメールなどで受け付けています。

資料を所蔵していても現在の安全基準に合致しているのか不明な場合や、新製品については特許が絡む場合があるため、専門機関を紹介することが有効なことがあります。以前、当課で紹介した例としては、ストーブ製作のための設計図(企業の方)や綿菓子製造機の作り方(個人の方。簡易なものではない。)などがあります。

◇ 札幌市北区北19条西11丁目 TEL 011-747-2321 FAX 011-726-4057

◆**北海道立食品加工研究センター** <http://www.foodhokkaido.gr.jp/>
食品加工技術相談があり、食品製造関連の方以外は受け付けていませんが、起業予定の方は相談できます。当課では、昆布を使った新商品を作りたいという方にこちらを紹介しました。

◇ 江別市文京台緑町589番地4 TEL 011-387-4111 FAX 011-387-4664

◆**北海道立林産試験場** <http://www.fpri.asahikawa.hokkaido.jp/>
北海道内外の林産業界や木材の基本的な性質から高度な加工・利用、キノコの栽培などの一般の方からの技術的な相談を電話やメールなどで受け付けています。

◇ 旭川市西神楽1線10 TEL 0166-75-4233 内線 341・365 FAX 0166-75-3621

◆**北海道立林業試験場** <http://www.hfri.pref.hokkaido.jp/>
「みどりの相談」などで一般の方からの質問を電話やメールで受け付けています。

◇ 美唄市光珠内町東山 TEL 0126-63-4164 FAX 0126-63-4166

道内の各地域にも関連機関がありますので、利用しやすい機関を紹介すると良いと思います。

課員のつばやき 一日々の業務からの短信— 【21】

レファレンス協同データベース

私が日々の業務でよく使い、お世話になっているサイトに国立国会図書館が運営している「レファレンス協同データベース」（以下、「レファ協」と略します。）があります。

レファ協をよく使うようになったのは、2年ほど前に、「レファ協ほめまくり」というサイトを偶然見つけたことがきっかけでした。

この「レファ協ほめまくり」はレファレンス協同データベースにあるレファレンス事例を詳しく説明し、その回答にいたるプロセスをほめるというものです。他の職員が手がけたレファレンス事例を読むことは参考になります。しかし、漫然と読むよりもそのプロセスを詳しく解説してある方が、もっと参考になります。

「レファ協ほめまくり」はまさにそういったサイトでした。この手の質問を受けた場合、どんなツールに当たるのがベストか、または、関連して使える資料やサイトを紹介しており、とても参考になると思いました。このサイトが素晴らしいのは、個々の事例を「ほめる」という所です。分析よりも、ここが素晴らしいというポジティブな視点で書かれていますので、読んでいて気持ちいいものです。そのため、面白く、どんどんと読み進んでいきました。

取り上げた事例もテーマが硬いのから柔らかいのまで、多様でした。

はじめは「レファ協ほめまくり」だけを見ていましたが、やはり本家の「レファレンス協同データベース」の方も見てみようと思うようになりました。

その頃から、自分の担当しているレファレンスが行き詰ったときに、参考になる事例をレファ協から見つけることが度々ありました。実際の業務に「使える！！」と気づいたので。

それからは、何かあるたびにレファ協を検索したり、メールマガジンの「参加館通信」に目を通すようにしています。

レファ協を使う用途として、「情報源としての用途」の他に「研修のための利用」などがあります。（「レファレンス協同データベース事業データ作成・公開に関するガイドライン」p.10）

日常の自己研修のみならず、今年度は全道図書館新任職員研修会のレファレンス演習の時間でもレファ協を使いました。レファ協にある事例を元に演習問題を決め、演習の中でも検索するという、新しい試みで行いました。

また、Do-Re の原稿を書く際に、ネタに困ったときもレファ協から話題を持ってきたりしてます。レファ協様さまです。ほめまくりならぬ、しゃぶりつくようにレファレンス共同データベースを使っている気がします。

レファ協はこのように、色々な使い方ができます。見たことのない方は、ぜひ、一度ご覧になってはいかがでしょうか？

◇ **レファレンス協同データベース（一般利用者用）**

URL: <http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

◇ **レファレンス協同データベース事業データ作成・公開に関するガイドライン**

URL: http://crd.ndl.go.jp/jp/library/documents/guideline_all.pdf

◇ **レファ協ほめまくり**

URL: <http://d.hatena.ne.jp/nachume/>

レファレンス・サービスに関する雑誌記事紹介

(2008年11月～2009年1月分)

※ 論題(記事名)、著者、雑誌名、出版者/編者 巻号、発行年月、掲載ページ の順に記載

(参考: 国立国会図書館NDL OPAC 雑誌記事索引)

- 1 れふぁれんす三題噺(その152)相模原市立橋本図書館の巻 相模原市立橋本図書館のビジネス支援サービス—ビジネスコンサルティングでNPOと連携してレファレンス / 興津 紀子『図書館雑誌』日本図書館協会 102(11)(通号1020)[2008.11] p.794～795
- 2 高田高史のレファレンスひろば(その7)キリンピールのラベルの動物は、どんな動物なのか、キリンに見えないのはなぜか ほか / 高田 高史『あうる』図書館の学校 / 図書館の学校 編 (85)[2008.10・11] p.36～39
- 3 チャートで考えるレファレンスツールの活用(ステップ22)仕事・ビジネス / 大串 夏身『あうる』図書館の学校 / 図書館の学校 編 (85)[2008.10・11] p.44～46
- 4 レファレンス—血液病の1年間の件数(特集 日本病院ライブラリー協会2008年度第1回研修会)—(分科会2 レファレンスQ&A) / 山岸 里子『ほすびたるらいぶらりあん』日本病院ライブラリー協会 / 日本病院ライブラリー協会 編 33(3)(通号118)[2008.9] p.203～205
- 5 患者図書室でのレファレンス—アンジェルマン症候群(特集 日本病院ライブラリー協会2008年度第1回研修会)—(分科会2 レファレンスQ&A) / 有田 由美子『ほすびたるらいぶらりあん』日本病院ライブラリー協会 / 日本病院ライブラリー協会 編 33(3)(通号118)[2008.9] p.200～202
- 6 レファレンスサービスと情報リテラシー教育—国公立大学図書館の取り組み事例(2007年度[私立大学図書館協会]東地区研究部 研究会分科会報告大会) / 小坂 守; 竹澤 弘恵; 中澤 恵子 他『私立大学図書館協会会報』私立大学図書館協会 (通号130)[2008.9] p.116～127
- 7 Current Practice in Health Sciences Librarianship(第6回)V1.Reference and Information Services in Health Sciences Libraries レファレンス・ライブラリアンの果たす役割 / 古関 美津子『医学図書館』日本医学図書館協会 55(3)[2008.9] p.207～210
- 8 パスファインダー協同作成支援システムへの取り組み(特集 大学図書館と利用教育) / 三根 慎二; 寺井 仁『図書館雑誌』日本図書館協会 102(11)(通号1020)[2008.11] p.774～777
- 9 アメリカのビジネス・ライブラリーはどのようなものかご存知ですか(小特集 図書館のビジネス支援を問う) / 伊藤 昭治『談論風発』甲南大学文学部図書館学研究室 / 甲南大学文学部図書館学研究室 編 3(3)[2008.11.11] p.1～6
- 10 図書館のビジネス支援サービスは成功しているか(小特集 図書館のビジネス支援を問う) / 田井 郁久雄『談論風発』甲南大学文学部図書館学研究室 / 甲南大学文学部図書館学研究室 編 3(3)[2008.11.11] p.7～14

- 1 1 2008 年度特別研究例会報告 自治体活動を展ばす公共図書館の支援 / 『図書館界』日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 60(3) (通号 342) [2008.9] p.204～208
- 1 2 県政の知の拠点をめざして—鳥取県・県庁内図書室 (2008 年度特別研究例会報告 自治体活動を展ばす公共図書館の支援) / 網浜 聖子 『図書館界』日本図書館研究会 / 日本図書館研究会〔編〕 60(3) (通号 342) [2008.9] p.206～208
- 1 3 キラリ!司書教諭(55)学校図書館事始め—まずは調べ学習から / 佐藤 光 『学校図書館』全国学校図書館協議会 (通号 696) [2008.10] p.76～78
- 1 4 なぜこんなに変わったの? 加藤洋子さんが『ちゃぶ台からテーブルへ 移りゆく昭和の食』を座間市立図書館で調べるまで (特集 大人の調べもの) / 加藤 洋子『あうる』図書館の学校 / 図書館の学校 編 (85) [2008.10・11] p.10～15
- 1 5 公立図書館職員の情報源—サービス職員の属性,県の視点から 松本直樹 日本図書館情報学会誌 日本図書館情報学会/日本図書館情報学会 編 54(4) (通号 176) [2008.12] p.241～252
- 1 6 はつらつセカンドステージ(第6回)個人史図書館を全国ネットワークに育てたい 庶民の生きた証を集めた「個人史図書館」を創設 松本すみ子 ファイナンシャル・フォーラム 京都総合経済研究所 / 京都総合経済研究所 編 (80) [2008.Spr.] p.32～34
- 1 7 導入・運営実態 千代田図書館 公共図書館の常識を破り、調査・研究を目的とする“滞在型図書館”に挑む—ヴィアックス・SPSグループ 指定管理者制度 ビルネット (35) [2009.1] p.31～36
- 1 8 フィルタリングソフトの性能と公共図書館への導入状況に関する実態調査 矢作明子,辻慶太 図書館界 日本図書館研究会/日本図書館研究会〔編〕 60(5) (通号 344) [2009.1] p.290～301
- 1 9 北米の大学図書館におけるWeb2.0以後の変化—情報リテラシーに与えた影響 野口契子 情報管理 科学技術振興機構研究基盤情報部 51(10) [2009.1] p.733～742

<< 速報 >収録範囲外ですが>

- ◇◇ これがビジネスに役立つ図書館だ (使える図書館) 井上真琴 エコノミスト 毎日新聞社 / 毎日新聞社〔編〕 87(7) (通号 4014) [2009.2.3] p.80～81
- ◇◇ 起業・経営を支援 変わる「知の集積庫」 (使える図書館) 菊地正憲 エコノミスト 毎日新聞社 / 毎日新聞社〔編〕 (通号 4014) [2009.2.3] p.77～79

NEWS

1 道民ホール展開催（10/23～24）

北海道立図書館では、10月23日（木）～24日（金）の2日間、北海道庁1階ロビーにおいて、「使ってみませんか道民の本棚～北海道立図書館利用案内展～」を開催しました。今回はパネル展示を中心に、北海道の図書館の役割を分かりやすく紹介し、来館したことのない方にもより詳しく知ってもらう機会となりました。参考調査課ではレファレンスサービスをPRするコーナーを設けました。展示期間を通しての入場者は約300人で、両日先着30名様にオリジナルしおりのプレゼントもあり好評でした。

2 書庫ツアー第3回開催（11/3）

11月3日の文化の日にあわせて、道立図書館では今年度3回目の書庫ツアーを開催しました。開催日が祝日ということもあり、今年度最多の23名の方の参加がありました。親子連れや初めて来館したという方も多く、読書週間期間中の行事として良いPRになりました。

3 市町村図書館職員レファレンス研修を実施（11～2009.2）

11月から2月にかけて、芽室町・石狩市・函館市・標茶町・新十津川町の5館7名の職員が来館し、レファレンス体験研修を行ないました。2日日程の研修を希望する館もあり、情報交換や書庫案内に時間を取ることもできました。この研修は受講者の希望に沿った研修カリキュラムを個別に行い、実践現場に活かしてもらおうとするものです。来年度も多数の申込みをお待ちしています。

（11/14・芽室町1名 11/18-19・石狩市2名 12/17-18・函館市2名
2/12-13 標茶町1名 2/25 新十津川町1名）

4 道民カレッジ連携講座「暮らしに役立つ図書館活用術②」開催（11/20）

11月20日（木）、当館1階研修室で「暮らしに役立つ図書館活用術－応用編－」を開催しました。今回の講座では“法令・判例の調べ方”テーマに、図書館で扱う資料の種類から調べる上での基礎知識や注意といった内容を、楽しくわかりやすく学ぶことができる内容としました。当日は14名の方が受講しました。

5 日外アソシエーツ特別企画 図書館司書アンケート結果発表（11/26）

第10回 図書館総合展の日外アソシエーツ特別企画として行なわれた図書館司書アンケート「私が選んだレファレンスブック2008」の結果が11月26日（水）に発表されました。

このアンケートは、公共図書館、学校図書館、専門図書館等で実際のレファレンス業務に従事している人を対象に、日々のレファレンス業務の中で役に立つと思ったレファレンス・ブックを10点挙げてもらうもので、その結果内容はインターネットの日外アソシエーツのHP・レファレンスクラブで見ることができます。

（http://www.reference-net.jp/my_best10.html）

6 道医療大連携講座「わかりやすい健康に関する情報講座」開催（12/2）

12月2日（火）、日本生命札幌ビル 5F にある北海道医療大学札幌サテライトキャンパスにおいて、道医療大学と道立図書館が共催するセミナー「わかりやすい健康に関する情報講座」を開催しました。道医療大学との協力による共催セミナーも2年目に入り、今年は2月、8月に続いて3回目の開催となり、毎回多数の方が受講されています。今回は「認知症の新しいアプローチ」をテーマに道医療大学教授の阿保順子氏に講演していただきました。

7 図書館地区別（北日本地区）研修開催（12/9-12）

12月9日（火）～12日（金）の4日間、道民活動センターかでの2・7で、「図書館地区別（北日本地区）研修」が開催されました。この研修は図書館等の勤務経験が3年以上の職員を対象に文部科学省・北海道教育委員会が主催、道立図書館が主管して行なわれたものです。55名が受講し、道立図書館参考調査課からも工藤・今野・太刀野の3名が参加しました。

8 道民カレッジ連携講座「インターネット活用術 ②」開催（2009.1/29）

1月29日（木）、北海道立教育研究所附属情報処理教育センターを会場に講座を開催しました。今回は応用編ということで「健康・医療情報」をテーマに、北海道立図書館のホームページにある情報サイトリンク集「DO-LINKS」の使い方を中心にネットを使う場合の基本的な心構え？も含めて楽しく学べる内容となり、13名の受講者が参加しました。

9 『建設業新分野進出事例発表会』開催協力（2009.2/6）

2月6日に札幌市で開催された「建設業の新分野進出優良事例発表会」に、北海道立図書館ははじめてブースを設け、関係資料の展示や図書館利用のリーフレット配布を行いました。同事業は、北海道が進める建設業のソフトランディング事業の一環として開催されたもので、新分野への事業進出に関心を寄せる参加者に、図書館が提供する資料や情報をPRする新しい試みの機会となりました。

10 書庫ツアー第4回開催（2009.2/19）

初冬の冬季の書庫ツアーを2月19日（木）に開催し、平日にも関わらず9名の方が参加されました。参加者からは道立図書館の資料保存の機能に関心が寄せられ、普段は見る事ができない裏側を知っていただく良い機会になりました。

編集後記

◇ エコロジブームや石油価格の不安定さもあり、この冬は湯たんぽが流行しています。はらまき、レッグウォーマーなどもそうですが、過去に廃れていたものが注目されていますね。湯たんぽは漢字で書くと、「湯湯婆」だそうです。寒い日々もあと少しの辛抱です。(や)。

◆ 前号の編集後記で触れた道立図書館の「エゾリス」ですが、12月に入ってから、また何度か見かけるようになり、冬毛になった姿を撮影することができました。

雪が積もってからは見かけませんが、無事に春を迎えるよう祈っています。(T)



◇ 「漢字の本」が売れています。「読み間違い」も一般化すると「消耗」がもともと「しょうこう」であったように「慣用読み」として認められます。当館には、漢字の読み・存在の有無などの照会がよくあります。正しい読みとは？ 国字、旧字体、異体字、あて字など調べながら漢字の奥深さを改めて感じています。(N)

◆ 最近多いレファレンスに、翻訳書の調査があります。この本の続編は？ 参考文献で照会されているこの本は・・・でも、日本語訳では出版されていないことも多いのです。“ない”ことの証明が調査では一番難しいのかもしれないね。(た)

◇ Newsでもお知らせしましたが、2月の館内ツアーには予想外に多くの来館者にご参加いただきました。それにしても、「小樽雪あかりの路」に合わせて限定開園したほとんど陸の孤島の“おたる水族館”にも大勢のお客さんが来ていましたっけ。寒い冬の休館中でも動物たちはちゃんと生きていたことに感動。(あたりまえなのですが)(へ)

◆ 今年度3号目のDo-Reをお届けします。今回は、厚岸の川原田さんからご寄稿いただきました。ご協力にお礼申し上げます。

当館の周辺は、例年にも増して雪が少なく経過していますが、油断大敵。みなさんも元気で過ごしてください。<S>

～蔵書点検期間のご案内～

道立図書館では次の期間に蔵書点検を行います。

点検期間中は、貸出・返却の処理のほか、レファレンスの回答も休止させていただきますので、ご協力をお願いします。

蔵書点検期間：平成21年3月10日(火)～3月16日(月)



Do-Re(どうれ)の由縁

“どうりつとしょかんレファレンス”の
略から名付けました。

しかしながら

“どれどれレファレンス”からの説もあります。

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 No.34(通巻38号)

発行年月日 平成21年2月20日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.library.pref.hokkaido.jp>

e-mail: sancho@library.pref.hokkaido.jp
